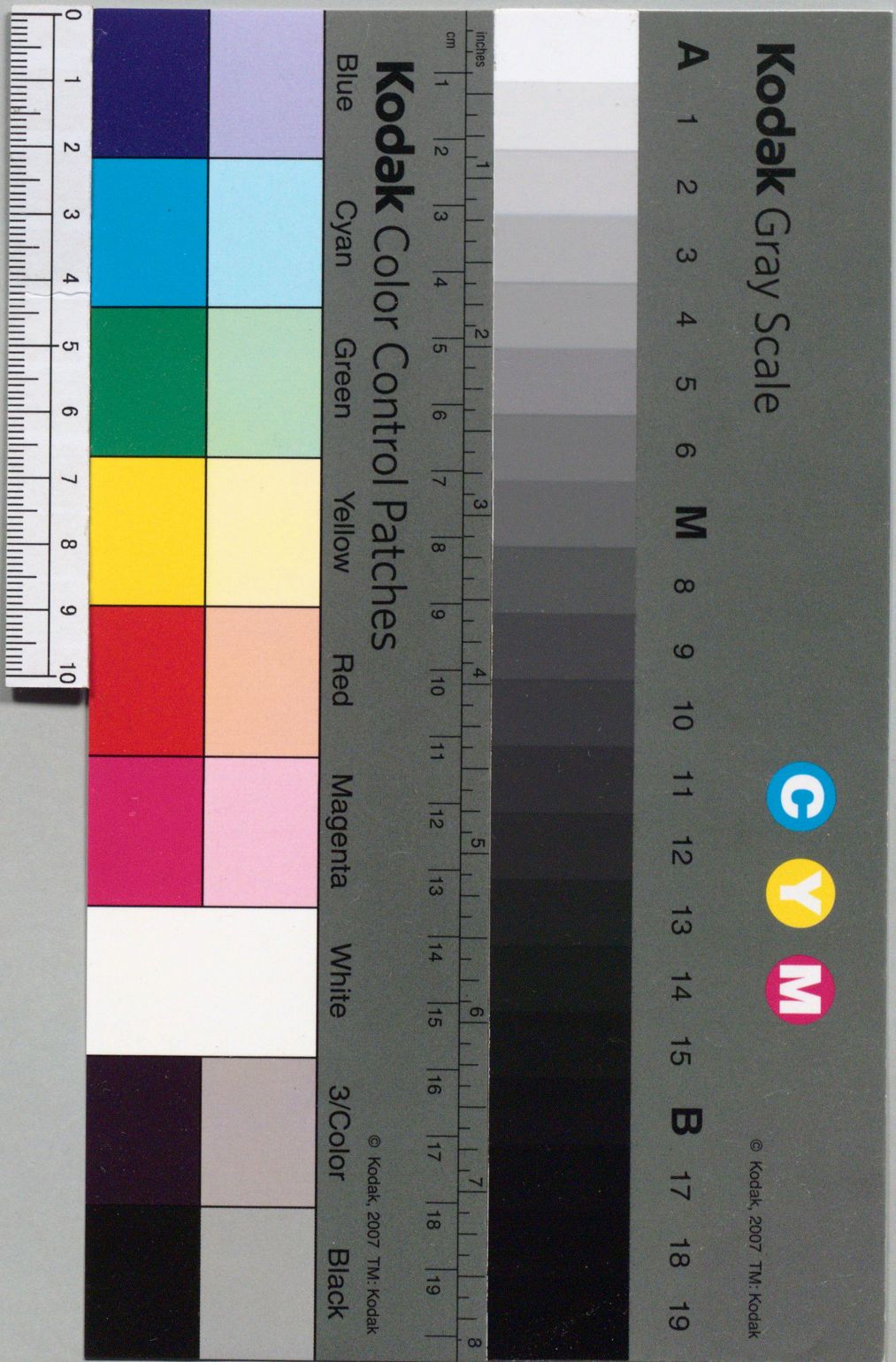
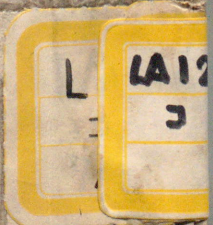


國學管見

全



© Kodak, 2007 TM: Kodak



困學管見

天下國家治日々に仁主と臣との中ありて本

固より如く國安し竟取と仁愛の心ありて丹

朱く不肖たりしは居るに任じ堪ざるは心と徳を推す

舜とを尊しは心と徳の子高均し亦不肖るは心

高均等しは心と徳の子高均し亦不肖るは心

稱しして其れ富貴より河川より金も何れもたつた

高の子啓を尊しは心と徳の子高均し亦不肖るは心

とも高均均益し徳の心と徳の心と徳の心と徳の心

ありて其れ大切なりとて其れ尊しは心と徳の心と徳の心

蘇味重臣代寄贈本

詩玉縣立詩玉圖書館

れ任女場く百姓亦ちりき従ふとて讓を避く文に
終女夏國を立し始て天下啓る家とるなり天下の
あまのわらひやけめし實女千人の器女一にして任女居
を最上のこととるなり仁愛女千人世女稀なることとる
いさひひりひりなる所有りたり家女長子の子女
お似せれとも祖先の徳を継ぎて法をとりて世に
しつ治るる人惟女とるひりひりなることとるなり
人の欲する事とるなりなりなりなりなりなりなりなり
凡人の事なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
見し成長するもの惟女居とるなりなりなりなりなり

梅沢

人と君とをさるるなりなりなりなりなりなりなりなり
君の子孫なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
是る人なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
不肖の女ありなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
樂紂幽厲のこゝに暴君とにたかひなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
安堵せたりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
再身一各義なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

周室之中興一のありし聖意と申す南陽の諸侯大吏と申す
世理ありし一の乱れありし且女子若利也人之所たうる
治永安而後之と申すありし一の治を降ふは衰微の
ふりし一の氣^{カキ}并^{アハ}たりし一の治を降ふは衰微の
既女春秋の時少國も百里の由を何しと申す
之證ハ孟子が魯欲使慎子爲將軍孟子曰不教
民而用之謂之殃民殃民者不容於堯舜之世一戰勝
齊遂有南陽然且不可慎子勃然不說曰此滑釐所
不識也朱注ハ是時魯より慎子と大將と申す齊は
伐ハル南陽を可^レ人^トと申す何と孟子が不可^レ也

慎子ありけり孟子再ひて曰吾明告子天子之
地方千里不^レ千里不^レ以待諸侯諸侯之地方百里不^レ
里不^レ以守宗廟之典籍周公之封於魯爲方百里
也地非不^レ足而僉於百里今魯方百里者五子以爲有王者
也地非不^レ足而僉於百里今魯方百里者五子以爲有王者
作則魯在所損^レ卒在所益^レ卒徒取諸彼與此然且仁者
不^レ爲况於殺人以求^レ之乎君子之事君也鬻^レ引^レ其君以
當道志於仁而已と春秋の世より皆殃民の氣也所謂
無義戰一切剛武敵を威すは仁を以て而を懷柔
するはありし一の人情ありし一の謙んば心好むの

居又と識さくしる我らくし世教の以稱一皆之の
可くも其時秦くして天の力のさぬ不るきと世ありて
之のあり凡小居之世ありて其識とるるものあり
世ありて存之徳と海して之れと稱次人居の戒あり
若し其ありて之のありて史官直筆其のありて其
溢のくありて其識と用由るありて楚共王卒其時
大夫よ告して曰不穀不徳少至社稷未及習師保之教訓
而應受^ア多福是以不徳而亡師于鄢以辱社稷為大夫
受若以大夫之靈獲^下保為領以没於地所以從先君於
禰廟有請為靈若原大夫擇焉莫對及五年乃許

王卒子囊謀謚大夫曰君有年矣子囊曰君年以共
若之何毀之赫楚國而君臨之撫有蠻夷奄征南海
以屬諸夏而知其過可不謂共大夫從之と鄢陵
北戦ひたり子玉が剛愎のむとありて共王の欲せざる全く
王の過ありて其のありて其のありて其のありて其のありて
惡溢とありて子囊も其のありて其のありて其のありて其のありて
つゝ存子慈孫とつゝも百姓ありて其のありて其のありて其のありて
ありて其のありて其のありて其のありて其のありて其のありて
を前年其のありて其のありて其のありて其のありて其のありて
之のありて其のありて其のありて其のありて其のありて其のありて

王の後を始り周公太公の功臣の蹟も斥滅して彼に皆を不仁の者にして天意ぬらふべし程の計に果して死して以て肉を食へるに天下を解して皇五帝をかきとておもつた稱号も他人の爲となり萬世を欺く程も僅かに止り死してに得たものをいふは悲む哉

○子貢問曰何如斯可謂之士矣子曰行已有耻使於四方不辱君命可謂士矣凡男子を生きて己を才と行ふ能くせしむる四方を使へし君命を辱らざる專對して稱譽せらるれば及年を多し給るべし士といふは多しと

子曰敢問其次曰宗族稱孝焉鄉黨稱弟焉と其方ハ宗族とも宗族ハ黨といふ事也孝弟凡人と稱譽せらるる多し仁を多しければ亦多しければ道に生きたるは亦多し士といふは是なり曰敢問其次曰言必信行必果硜々然小人哉抑亦可以爲次矣と硜々とは小石堅確なるものこと注して小人の識量淺狹なり也譬へて布衣ハ是なりといふ事也言ハ多し信ハ多し行ハ多し果として行ふは小人の量といふ事程も士の行ひは善くはしむべしといふ事也皆市井利の事なり程も士といふは是なり程も程も子貢もいふ事也世の爲は徒らに大夫と向ふは

何事をも先ッ士より問詰し其理を問ひし俄か大吏は
議量を問ふし孔子の答を問ひし其の如く疑ひを解
くむとなり曰今之徒政者如何曰噫中ノ管之人何足
算也と宣ふ噫と心不字の如く注氏平生也子今汝大吏以
上の人よしと云ふ何れも天下少家の事を思ひ何れ志し徳を
柳り利を貪りしとせよ私せぬ人何れし孔子を用ゆるよ
何れに東周と中興とをも難くしし汝もさることと望み
かかす心もみぬ何れも其力も時を以て今の政事と
す事も何れもゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
答へぬふなゆゆ

○孔子はと萬石の首と一君子は此の身一なりゆき
其の如く許しあるも心川も不知其仁と云ひ焉得仁と宣
ひ又新河と云特々也一力の其死をも神をほらほ
せりと論罵りのふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ふみ及ふよや一と孔子も常に仁と説きゆゆゆ
宜しゆゆゆ三月ふ遠仁と云ひ主修の事子と曰月
至焉而已矣と宣ふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
堯舜禹湯大王大伯王季文王成王周公伯夷叔齊
孔子等此外多し何れも仁人と云ふゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

こゝに欲は是れなり人々之を己の利として人非言つこと
をたてて抑文を執るに以てしむるは伯夷叔齊の孤竹
の居の事なり父事無叔齊をたてて欲するは伯夷をよ
意とてしむるを避して叔齊を後しり此叔齊又兄は古
才の立ちし不順なりと父の命なりしを以て之を承けて
避して去り而己をたてし中子代まで君と以て二人首陽
山に居て薇を食して食ひ終り餓して死してしとて子
貢が孔子を何人と問ふを以て孔子曰く去ると答へ
たり此の伯夷兄弟等より君を以て捨てて首陽山に居て
餓死するは其の心は後世を悔然とすもつひくさき事と

同也事多に孔子伯夷を以てるは其の意は如何なりと
此君の富貴を以てしむるは仁ならずとて避たれは仁を求む
るより叔齊亦父の意を以てしむるは兄弟代りしを以て
此の事も亦不仁なるが父を以て忍び以て後れぬがこれ
も又仁とせざるなり二人たてり此ことならぬは其の怨
の深き事なり是れを以て仲子の心を知るは其の忠愍の
心ありし事なり此れ一己を欲せずは亦仁人なれば其の
おのれを身より利を以てしむるは不利なり其のせうめ
り其れ仁人の心より依てしむるは吾も孔子の湯武の桀
紂を放代志のふら君を殺し去りて其れを以て其れは

理のさしこゝろのこころを人君といふは暴虐なり
とて臣の上をけりかすまゝに罪をさしてはいさしむるなり
悪王めしむ罪をゆるぎとせしむる大公無私の皇天赫々明
るの上帝いさしむる邪曲をむす湯誓に曰夏王
率^テ過^ク衆力、率^テ割^リ夏邑有衆率^テ急弗^レ怙曰時^ニ曷^レ喪
予及^ニ汝^ノ皆^ニ之^ヲ夏德若^レ茲云又^レ紂^ノ亦^レ々^ニ泰誓に今高
王受弗^レ敏上天降^ニ災下民沈^ニ酒冒^ニ色敢^ニ行^ニ暴虐罪
人以^レ族^ノ宦^ノ人以^レ世^ノ惟^ニ宮室^ノ臺榭^ノ陂池^ノ侈^ニ服^ニ以^レ殘^ニ害^ニ于^レ爾^ノ萬
姓焚^ニ矣^ノ忠良^ノ劓^ニ剔^ニ乃^レ子^ノ婦^ノ皇^ノ天震怒^ニ棄^ニ我^ノ文^ノ考^ノ爾^ノ將^ニ天
威^ノ大^ニ熾^ニ未^レ集^ニ肆^ニ予^ノ小子^ノ發^ニ以^レ爾^ノ友^ノ邦^ノ冢^ノ君^ノ觀^ニ政^ニ于^レ爾^ノ帷

受^ニ罔^ニ有^ニ愆^ノ心^ノ乃^レ夷^ニ居^ニ弗^レ事^ニ上^ノ帝^ノと稱^ニする^ノ所^ノの^ノ心^ノを^レさ^ニす^ノ
居^ニる^ノに^レ堪^ニへ^ニさ^ニや^ニ百^ノ姓^ノの^ノ心^ノを^レさ^ニす^ノに^レむ^ニる^ノの^ノ心^ノを^レさ^ニす^ノ居^ニ此
却^ニて^レ臣^ノの^ノ讎^ノを^レ湯^ノ武^ノの^ノ心^ノを^レさ^ニす^ノに^レ深^ニき^ノか^ニら^ニる^ノ
湯^ノ武^ノの^ノ湯^ノを^レさ^ニす^ノに^レ有^ニ慙^ノ德^ノと^レ言^ニふ^ノに^レ臣^ノと^レに
居^ニる^ノに^レ力^ノが^レな^ニく^ノに^レ仲^ノ虺^ノ詰^ノと^レ作^ニる^ノに^レ已^ニま^ニら^ニぬ^ノの^ノ疑^ノと
亦^ニも^レ帝^ノ王^ノと^レ紂^ノの^ノ心^ノを^レさ^ニす^ノに^レ撫^ニ我^ノ則^ノ后^ノ率^ニ我^ノ則^ノ誓^ノ獨^ノ夫
受^ニ洪^ノ惟^ノ作^ニ威^ノ乃^レ汝^ノ世^ノ讎^ノ也^ノと^レ言^ニふ^ノに^レ已^ニま^ニら^ニぬ^ノの^ノ疑^ノと
い^ニは^ニす^ノに^レ討^ニつ^ノ徳^ノと^レあ^ニら^ニぬ^ノに^レ已^ニま^ニら^ニぬ^ノの^ノ疑^ノと^レ言^ニふ^ノ
かの^ノ架^ノ々^ノ弗^レ克^ノ若^ノ天^ノ流^ニ毒^ノ下^ニ國^ノと^レ言^ニふ^ノに^レ受^ニ罪^ノ浮^ニ于^レ桀^ノと^レ言^ニふ^ノに^レ帝^ノ王^ノの^ノ心^ノを^レさ^ニす^ノ
小^ノの^ノ心^ノを^レさ^ニす^ノに^レ帝^ノ位^ノを^レさ^ニす^ノに^レ已^ニま^ニら^ニぬ^ノの^ノ疑^ノと^レ言^ニふ^ノ

の附母何ししあまの放伐めしきし重き別母
かしくすれ可断も何のめし別母御事不競遂事不謙
既往不智と云ふと云ふ也湯武の擧^{トコ}まこと此後世母雄
此口實と云ふといふ既往もと云ふ事ありしと云ふ二君も此
即ち故ふよ何しし天子御算ふに何れに憲章一カハ
古ハ何れありかりむ別母御しと云ふ事御算ふに
の事ハ別母處を何しし惜哉時母後日かたふこと御
去る事いすし周室の令く衰へて春秋と制作をせし
故長賤子の相も何しし時をさしあつたの諸侯大夫皆何れ
何れせむと云ふ事いして各と云ふしやんを御算ふに周室御算ふ一昔

別母何しし世と云ふし尊位をなすかたを疑ひる御
一昔 別母 帝王一人 神世何ししと云ふ御
多まらかた御算ふに水ハ人ハ 天位を疑ふこと御
いしと云ふし 神世何ししと云ふ御
神武天皇元年辛酉のとしと云ふ 今文改土年戌子の歲
より二千四百二十八年壬午御算ふに御算ふに御算ふに
之種の神靈也御算ふに御算ふに御算ふに 天長御
竊る御算ふに御算ふに御算ふに御算ふに御算ふに
大古神算の御算ふに御算ふに御算ふに御算ふに御算ふに
仁大公御算ふに御算ふに御算ふに御算ふに御算ふに御算ふに

かりきり萬成の安しん
 妙はるは夏也のり
 一人の私をたむ
 即とせし
 稷契皋陶以下
 と安堵なき
 走り皆不肖
 知りし
 君に
 謀りし

たりし
 祥瑞
 謙し
 子
 君徳

し〜教を仰ぎの域らう〜子子の東周をきとる
ふ〜蓋さ〜吾 邦の 神制令〜子子の夏を
かる〜唯 天朝の由事〜幕府
始〜大中の儀あるは皆由世〜萬感は
○仁女志〜博文啓記天資俊才〜謙遜の徳
を養ふ〜傍着人〜孔子曰馬牛
の凡と同〜子曰仁者〜
も〜古語〜

埼玉県立五國書館

と信〜由迄〜訓諺〜事成好〜
克讓齊の過恭允塞禹の不矜不伐孔子は温良恭謙
讓等常〜心女忘れ〜傲慢の氣は胸
中女畜〜〜子曰〜子孫〜居子た〜
欲〜子の却〜小人の喘を〜
出耻窮之不逮也〜又君子欲訥於言而敏於行〜
〜又者則不遜〜固與其不遜寧固〜
〜又者〜不遜〜
〜志信〜人非〜

厚くはる人の心も忠はるもすむらからん人常は心は義
 としふし成言はしむも忠はるもすむらからん人常は心は義
 其好い及とたりかき一世の人其婦をなむそのおの
 せり子とあむしむるもすむらからん人常は心は義
 母の川いふもすむらからん人常は心は義
 ういふもすむらからん人常は心は義
 曾子の二貫と支子の通に忠怒のいふはすむらからん人常は心は義
 するもすむらからん人常は心は義
 ちんとあむしむるもすむらからん人常は心は義
 と問ひしりし女子曰其忠平已所不欲勿終人と教へたり

樊遲は徳を宗一匡を備ふ徳をいひたりんこと何問ひ
 たりし女子曰善哉問先事後得非崇徳與攻其惡無攻
 人之惡非備匡與一朝之忘忘其身以及其親非惑與と
 教へ又君子成人之美不成人之惡小人反之と答ひ又人
 而無遠慮必有近憂又衆惡之必察焉衆好之必察焉と答
 へり又君子遠しむるもすむらからん人常は心は義
 時を變はるもすむらからん人常は心は義
 是をいふもすむらからん人常は心は義
 卒に其を信しむるもすむらからん人常は心は義
 こと好くもすむらからん人常は心は義

和らふ人ありて誰より歎けり形を譽んも一ほむの事
何れ誠の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
一人ありて誰より歎けり形を譽んも一ほむの事
多の忠孝をいんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
志川の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ

般は古き曰はれしをさうの藝術を同くする相愛む
人まゝ中の道蒙の一人たり其の事いんんを重しり
徳をたうくつ人と思ひ其節の事いんんを重しり
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ
其節の事いんんを重しり徳をたうくつ人と思ひ

熟讀教味— 女子は勸戒と事— 又群書と修し
古人の嘉言善行と抄— 座右とてそを展覧—
亦も之れを印— かしこく此の要念と句—
之をす— ちりひらりおのむるを攻く人の徳を
攻くといふ何れも其のよし— 博く書を讀
のこめ— 多識も— 代の隆陋ををり— 人皆そよ
志らむ— 不遜の詞を— 師を以て自長く— 大人は神
侮り敬禮を— 己方能て面— 何れも以て能問不能
以て問— 於寡有如無實若虚— 礼而不抗— 以て教を
たり— 礼儀の神め— 凡そ大戴禮投壺篇補注— 劉原

父投壺義をり— 子と獨り此の勝る— 飲—
むも罰を— 水と詞を— 敬養— 子も此の勝る—
謙辭— 咄々たる者— 勸— 負かぬ— さいを水に
も— 定めて痛くも— 飲— 酒と
病を— 飲ふ— 酌— 蓋— 辭— 會— 也— 且— 其—
大母尚— 少— 女— 也— 酌— 之— 形— 乃— 人— と辱— け— 不能— 小
し負— け— ず— 也— 咄— 々— 也— 亦— 猶— 有— 不能— せ— ず—
さ— ら— び— 賜— 灌— 之— 以— 飲— 之— 灌— 以— 飲— 之— 之— 色— 不可— 能— を
阿— して— 痛— 不— の— 何— ぞ— 何— ぞ— 也— 實— 其— 不能— を— 何— ぞ— 見— び— 白
なる— 猶— 有— 也— 色— 猶— 其— 形— 也— 亦— 猶— 有— の— 不能— せ— ず— 何

らりし怒と可の道に勝る事過を恥しそをわき
すしむ水人の事子後よ怒の心生そ人の事子後
馬鹿と怒と高小勝者初こふし怒をそり負ふも此
怒りし怒は心中に高ふまに何れもよりのけい辨
争訟獄の情しるる一居子の事ふ可なり一此教の
何れも天り此大なる億兆の人の多き神小まき水
英俊の才子そくそとまひまきとつし争の大意と
稱しそり高よ人よ回しつるかひをまきしめんよ
そりふひ人よあて居そり高と高と昌言
と中しつるおりかかそり書の大高謨小辨の爲

み譲りかかそり高し帝曰来高津水後予成元
成元惟汝賢克勤于邦克儉于家不自滿假惟汝賢
汝惟不矜天下莫與汝争能汝惟不伐天下莫與汝争
功予懋乃德嘉乃丕績天之歷數在汝躬汝終陟元
后又益々高よ賢よ辞めし惟徳勤天無遠弗届満招
頼謙受益ともしつる少しつるの事能をん
顔と何げし人よ矜りそり高上御儒しつるの事
職文仲り山崎藻校三家の雍徹管仲り樹門友始
そり高の事り高れそり高の事り高の事り高の事
そり高の事り高れそり高の事り高の事り高の事

昔のいふや、小量もや、孔子病、かふ時子路門人とし
 して、病に、病名よ、水と云ふ、ちて、子路、病り
 ざり、ふと、室の曾子の、實を、易して、後、と、病を、成
 して、流、と、こと、成、飲、と、人、い、ふ、形、早、疾、の、事、を、
 し、高、と、疾、を、知、る、を、さ、し、と、大、急、を、も、石、字、の、事、を、盗
 して、業、と、お、ま、く、と、い、う、物、中、の、小、量、を、と、り、と、て、海、客、仲、の
 賢、と、い、相、公、と、霸、た、と、い、の、一、切、は、終、り、と、由、是、成、借
 して、一、言、と、い、ゆ、を、樹、の、女、姑、水、積、と、い、お、も、い、と、い、ゆ、い
 いた、と、い、ゆ、孔子、の、小、急、と、い、ふ、り、か、ふ、い、と、い、ゆ、一、思、病、
 只、少、の、四、説、の、王、道、と、い、ふ、い、ゆ、一、と、一、朝、を、と、り、と、い、ゆ、と、い、

一、あ、ま、い、と、い、ゆ、志、る、山、の、河、歩、管、仲、の、周、室、へ、貢、物、の、地、
 と、貢、し、楚、を、服、し、昭、王、の、南、征、し、し、坤、り、か、ら、ぬ、と、い、
 主、代、楚、の、境、内、と、い、ゆ、を、と、い、罪、と、い、ゆ、を、と、い、ゆ、屈、定、
 同、答、只、包、茅、の、貢、物、の、事、と、い、ゆ、と、い、代、々、少、り、屈、
 齊、桓、列、國、の、法、候、と、か、い、ゆ、と、い、楚、の、一、大、吏、と、盟、し、兵
 女、と、文、と、い、ゆ、一、と、い、覇、業、と、定、め、り、と、い、楚、王、の、向、り、と、い、
 及、し、と、い、ゆ、一、と、い、お、こ、と、い、ゆ、一、と、い、と、い、と、い、
 一、と、い、と、い、ゆ、一、と、い、と、い、ゆ、一、と、い、と、い、ゆ、一、と、い、
 一、と、い、と、い、ゆ、一、と、い、と、い、ゆ、一、と、い、と、い、ゆ、一、と、い、
 一、と、い、と、い、ゆ、一、と、い、と、い、ゆ、一、と、い、と、い、ゆ、一、と、い、
 貢、物、を、微、る、事、と、い、ゆ、一、と、い、王室、の、事、と、い、ゆ、一、と、い、

王年と文と夏と一と一と一と王威の立こと明なり
周室の徳威を以ては是を是とす孔子は仲と切と賛して
如仁と多し孔子の時とすも周室の明を以て再び魯
がき極てて明王の如くからぬと云ふは嘆かざる若
又魯仲世時桓公と一と一と魯の附齊梁の王を説く
周室と一と一と衰つて一と一と魯は迫らる魏晋の侵
魏を纂ふよ是を是とす孔子の春秋を作らば
一と一と文武の及と地と墜と一と一と孔子の世は
あつて周室を令くと衰つて王孫滿楚子の鼎の悦意

と何と拒と晋文の隠と誘と去ると一と一と魯は
魯公を覇たると一と一と孔子は春秋を作らば
魯小七雅のめりや天王既周ノ君と稱せられ魯夷
諸侯の微なるものや孔子は春秋を作らば
一と一と孔子は春秋を作らば孔子は春秋を作らば
是と云周室尚附天王と稱して天子の共主と稱して周鄭
苟も一と一と孔子は春秋を作らば孔子は春秋を作らば
稱一と一と孔子は春秋を作らば孔子は春秋を作らば
の終り今と一と一と孔子は春秋を作らば孔子は春秋を作らば
小義と一と一と孔子は春秋を作らば孔子は春秋を作らば

さういふ事もなつて忘し宣りぬるべし一齊桓公女嫁仲
く物けぬけりし事、覇にありか、一子情實をよきと
て因寵を以て易子豊家をよきと、一死して國も亡え
さういふ事、一子戸出ると生かると、一葬むと、一死して
ぬき、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、
死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、
皆齊桓公女嫁仲、一死して、一死して、一死して、一死して、
力也、孔子被髮左衽と、一死して、一死して、一死して、一死して、
よ、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、

○孔子吾志在春秋と、一死して、一死して、一死して、一死して、
の徳と、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、
上下若命と、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、
民安逸之是仁の言、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、
一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、
具、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、
西君大夫孔子の言、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、
中興七系と、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、
諸侯の封國は、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、
制、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、一死して、

封境より自ら天子に侵掠を乞ふこと無く、天子は好む通
朝聘時とたゞし諸侯共におもひて周の天子に
さむく朝貢聘同是く時、萬世に傳へし政は
四海に治り此民を平しと誓ひて、堯舜の徳も何
ぞあるべきや孔子重く行ひて、風俗を正し
河岳を出るに九夷を飛んで、徳を以て天下を治り
後世に教へて顔回死して予をばらなせりと慟哭し
物を用ひる者何れも明徳の徳を以て三年おいて
南に居る何れも天子の公山弗擾、弗畔、昭、昭、
宮ふ重く心と誓ひて、周の徳を以て心重く

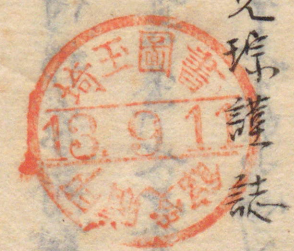
とて其志を以て子貢等も干微詞と多し、孔子は夫子之
不可及也猶天之不可階而升也、夫子之得邦家所謂
立之斯立、道之斯行、綏之斯安、動之斯和、具生也、
死也、哀如之、何其可及也、孔子の存生、
何れも助けず、もれもさへ、とて遺憾もさへ、
たゞし吾
邦のたゞし、頌へて、曰

大哉日域宇宙取則 天神守之 地神護
之 實祚延長 萬福無疆
あまを天に奉りて、吾邦もさへ、
さるといふ

素戔嗚の書しむみ細く萬一歳のころよりしてそののよ
み子の原とて舟師と合せしむるなり一子ありて別と
遂げかりし西土とて西土とて夷俗とて異なりなり
吾部とてなりしなりし

神代のよりして天卜萬氏の供福といふなり

文政十一年戊子九月 南柯齋 兎珠謹誌



淡路島に在りし神代文字の遺蹟を記す
淡路島に在りし神代文字の遺蹟を記す
淡路島に在りし神代文字の遺蹟を記す

